

日 本 史

第 1 問

次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問に答えよ。解答は、解答用紙(イ)の欄に記入せよ。

- (1) 法隆寺金堂釈迦三尊像は、623 年に渡来系氏族出身の鞍作鳥(止利)によって作られ、北魏様式を伝える。蘇我馬子による飛鳥寺の造営においては、百済王が技術者を派遣したほか、鞍作鳥が仏像を作った。
- (2) 670 年の火災ののち再建された法隆寺金堂の壁画は、インド的な要素もみられ初唐の絵画様式を伝える。この時期には、朝鮮半島の新羅を通じて唐文化の受容が行われ、白村江の戦い以後の亡命百済人の役割も大きかったと考えられる。
- (3) 702 年、30 年以上の空白をおいて大宝の遣唐使が派遣された。責任者の^{あわたの ま}粟田真人^{ひと}は、皇帝の則天武后に新たな国号「日本」を承認してもらった。唐に対して 20 年に一度朝貢するという約束を結んだのもこの時だったと考えられる。
- (4) この時唐に渡り、三論宗を学び 718 年に帰国した道慈は、多くの僧尼が正式な戒を授かっておらず、「今の日本の仏教のあり方は、唐とは異なる」と批判した。717 年の遣唐使で渡唐した玄昉は、経典五千巻余りを持ち帰り、法相宗を伝えた。
- (5) 754 年、鑑真が苦難を乗り越え遣唐使帰国船で来日した。鑑真は、唐の戒律学の継承者であり、日本に戒律を伝えてほしいと招かれ、東大寺大仏の前で聖武太上天皇以下に授戒し、多くの僧侶に正式な戒を授けた。鑑真は、経典や戒律をもたらしただけでなく、仏像製作などの工人も伴ったらしい。

設 問

7 世紀から 8 世紀にかけて、中国文化の受容のあり方や担い手はどのように変化し、その背景には何があったか。5 行以内で述べよ。

第 2 問

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えよ。解答は、解答用紙(ロ)の欄に記入せよ。

- (1) 1459 年、土一揆に東寺領内の者が加担したとの噂^{うわさ}が流れた。幕府の命令を受け、東寺は上久世荘・下久世荘の沙汰人たちに調査を命じた。沙汰人は荘園内の住民を集めて調査を行い、住民とともに誓約書を作成し潔白を主張した。
- (2) 1480 年、土一揆が蜂起すると、幕府は京都近郊の山科七郷の沙汰人たちに対し、土一揆に住民が参加したら、その村を処罰すると通達した。
- (3) 1485 年、土一揆の首謀者の地侍が、主君の守護細川政之の邸宅に逃げ込んだ。幕府は、政之にその処罰を求めたが、政之は「首謀者には他の守護たちの家来もいる。彼らが処罰するならば自分も処罰する」と言って拒否した。
- (4) 1486 年、土一揆が蜂起すると、幕府は有力守護細川政元に対し、配下の地侍が土一揆に参加するのを禁止するよう命じた。

設 問

室町幕府は、土一揆の蜂起に対し、徳政令を発布したり鎮圧軍を派遣したりしたほか、どのように対応したか。(1)(2)と(3)(4)にみえる土一揆の構成や基盤の違いにふれながら、5 行以内で述べよ。

第 3 問

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問 A・B に答えよ。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

- (1) 徳川家康は、1600 年 9 月の関ヶ原の戦いに勝利して豊臣秀吉政権の後継者としての地位を固めた。
- (2) 家康は 1601 年 1 月に東海道に伝馬の制度を定め、次いで 2 月に近江大津城・伊勢桑名城・三河岡崎城・遠江浜松城・遠江掛川城・駿河府中城(駿府城)・駿河沼津城に譜代大名を配置した。
- (3) 関ヶ原の戦いの後、家康は京都・伏見と江戸を行き来して政務をとった。大名は家康への忠誠心を示すために、必要に応じて京都・伏見や江戸に参勤した。家康から命じられ、ただちにわずかな供を連れて参勤することもあった。
- (4) 1615 年の大坂夏の陣の後に発布された武家諸法度では、参勤に関する規定が初めて明文化され、1635 年の武家諸法度では、隔年で 4 月に江戸に参府する参勤交代が定められた。多くの大名は儀礼的な体面を重んじ、家格に応じた行列を準備して参勤した。

設 問

A 関ヶ原の戦いの後の東海道整備にはどのような特徴があったか。徳川家康の意図に留意して、3 行以内で述べよ。

B (3)(4)から、大名の参勤に対する意識はどのように変化したと考えられるか。その背景に留意して、2 行以内で述べよ。

第 4 問

次の史料は、1873 年に来日し、お雇い外国人となったバジル・ホール・チェンバレンが 1890 年に著した『日本事物誌』の記述である。この史料と以下の(1)～(4)の文章とを読んで、下記の設問 A・B に答えよ。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

史 料

^{ミュージック}音 楽，この美しい言葉を東洋人による弦のかき鳴らしや金切り声を表すほど
^{おとし}に貶めて用いることが許されるならば，日本には神話の時代以来，音楽が存在して
きたことになる。(中略)音階がどうであれ，日本の音楽の効果は，ヨーロッパ
人の胸を落ち着かせることではなく，耐えがたいほどにいらだたせることであ
る。(中略)日本の音楽は，私たちの^{モード}旋法の区別を何ひとつわきまえておらず，そ
のため，(中略)^{メジャー・モード}長 旋 法 の力強さや荘厳さ，^{マイナー・モード}短 旋 法 の哀調を帯びた優しさ，そし
てその両方の交替から生じる光と影のすばらしい効果が欠けている。おそらくこ
れが，日本人自身が音楽にこんなにも無関心である理由だろう。

- (1) 1872 年に学制が定められた。そこには小学校の教科として「唱歌」があげられていたが、当面は実施しないこととされていた。
- (2) 1879 年、伊沢修二の上申により文部省に音楽取調掛が置かれた。伊沢は、米国留学中に指導を受けた音楽教育者ルーサー・ホワイティング・メーソンを招き、唱歌教育の整備を進めた。伊沢を中心とする音楽取調掛は、1884 年までに『小学唱歌集』を発行した。『小学唱歌集』に掲載された唱歌の過半数は、「見わたせば」(のちの「むすんでひらいて」)や「蛍」(のちの「蛍の光」)など、西洋の歌を原曲とするものであった。

- (3) 1887 年，東京音楽学校が設立され，伊沢修二はその初代校長となった。1901 年には，東京音楽学校の卒業生である滝廉太郎が作曲した「荒城の月」が発表された。
- (4) 義務教育が 6 年になったことに対応して，1911 年から 1914 年にかけて『尋常小学唱歌』が発行された。『尋常小学唱歌』は，音階や旋法といった面では『小学唱歌集』と大きな違いはなかったが，「春が来た」や「ふるさと」など，日本人によって作詞・作曲された唱歌のみが掲載された。

設 問

- A (1)にあるように，当初の学校教育において唱歌を当面実施しないとされたのはなぜか。史料にあるチェンバレンの見解に留意して，2 行以内で述べよ。
- B 『小学唱歌集』から『尋常小学唱歌』への内容の変化はどのような事情により生じたものか。3 行以内で述べよ。